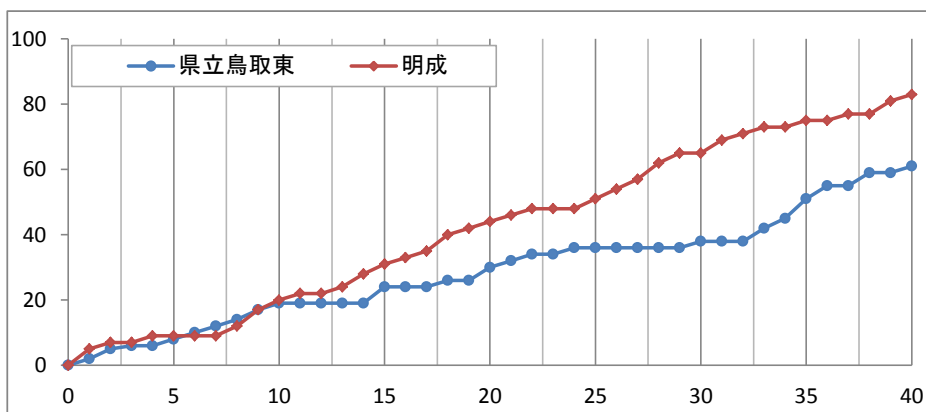


平成25年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技 第66回全国高等学校バスケットボール選手権大会

男子 2回戦	県立鳥取東 61	(鳥取) ●	19 - 20	83 明成	○ (宮城)
主審 古島 尚弥			11 - 24		
副審 原田 拓朗			8 - 21		
			23 - 18		
			—		

No. 30c1 日時: 2013年7月30日(火) 10:00 会場: 別府アリーナ



県立鳥取東

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	* 伊田 文汰 (C)	3	1	0	0	2
5	* 岸田 篤生	19	0	6	7	1
6	* 松岡 健太	18	2	5	2	2
7	* 水中 大輔	6	0	3	0	4
8	清水 周	0	0	0	0	0
9	中村 洸輔	0	0	0	0	0
10	梅澤 亮直	2	0	1	0	0
11	磯尾 和也	4	0	2	0	0
12	* 水本 悠斗	4	0	2	0	4
13	森川 直哉	0	0	0	0	0
14	吉岡 翼	5	0	1	3	0
15	田中 悠大	0	0	0	0	0
コーチ	中澤 雅樹					
合計		61	3	20	12	13

明成

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	* 金子 大希	3	1	0	0	1
5	阿部 元樹	0	0	0	0	0
6	* 植村 哲也	12	1	4	1	4
7	森川 文弥	6	0	3	0	1
8	納見 悠仁	4	0	2	0	0
9	築井 良知	2	0	1	0	2
10	* 白戸 大聖	25	7	2	0	1
11	* 宮本 滉希 (C)	6	0	2	2	4
12	柳川 知之	2	0	1	0	0
13	松本 健寛	4	0	2	0	1
14	* 八村 塁	13	0	6	1	0
15	三上 侑希	6	0	3	0	0
コーチ	佐藤 久夫					
合計		83	9	26	4	14

*...スターター (C)...キャプテン 3P...3点シュート 2P...2点シュート FT...フリースロー F...ファウル

戦評

第1ピリオド明成、県立鳥取東ともにハーフコートマンツーマンDefで始まる。開始早々、明成#4の3Pで先制、これに対し県立鳥取東は#7のジャンプショットですかさず反撃。その後も両チーム譲らず点数を重ねていく。お互いにタイトなディフェンスで1分間無得点の状態が続き、これを破ったのは明成#13のドライブからのランニングシュートだった。その直後、県立鳥取東#5の鋭いドライブがファウルを誘いフリースローを得る。これを1本決め、その後2連続得点でこのピリオド初めて県立鳥取東がリードする。これに対し#10の3Pで明成は同点とし、尚も一進一退の攻防が続く。残り1分#5の得点で県立鳥取東リードで終わるかと思われたが残り3秒、明成#10の3Pが炸裂。19-20で第1ピリオド終了。第2ピリオドはリバウンドからのパス速攻で明成が先制。県立鳥取東はすかさずタイムアウトを取り、流れを変えようとする。しかし、明成#7に得点を許してしまう。その後も交代で投入された明成#14のインサイドからの得点、#10の3Pで得点を確実に重ねていく。たまたま県立鳥取東はタイムアウト。その直後、県立鳥取東#6の3Pが決まり流れを作ろうとするが明成#10も3Pを決め、流れを渡さない。その後も県立鳥取東はタイトなディフェンスを見せるが、#11、#14の高さで勝る明成がインサイドから得点を重ね、30-44で第2ピリオド終了。第3ピリオド開始早々、#6、#5の連続得点で県立鳥取東が第2ピリオドの流れを断ち切るかに見えた。しかし、明成のバックドアプレイなどのパス回し、#10のアウトサイドからの得点を落ち着いて重ねていき確実にリードを伸ばしていく。残り15秒で#11がジャンプショットを決め、県立鳥取東は第4ピリオドにつなげる。第4ピリオド県立鳥取東は#4の3P、#14のリバウンドショット、#5のドライブ、#4の激しいDefで追い上げる場面があるものの、あと1歩届かず61-83で試合終了。終始落ち着いて得点を重ねた明成が勝利を掴んだ。

記者 安部 卓明 (所属) 大分県バスケットボール協会